

# 国際看護研究会 NEWSLETTER

No.75



2014. 10. 15 発行

本号の内容は以下のとおりです。

I. 第 77 回運営委員会報告	_____	p.1
II. 国際看護研究会第 17 回総会報告	_____	p.2
III. 国際看護研究会第 17 回学術集会報告	_____	p.2
IV. 第 17 回学術集会会長基調講演抄録	_____	p.3
V. 第 75 回国際看護研究会講演会のお知らせ	_____	p.4
VI. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）	_____	p.4

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

## I. 第 77 回運営委員会報告

国際看護研究会第 77 回運営委員会は 9 月 24 日（水）－26 日（金）にメール会議形式で開催された。9 月 10 日に開催される国際看護研究会第 17 回総会の資料について協議し、修正の上、承認された。

## II. 国際看護研究会第 17 回総会報告

国際看護研究会第 17 回総会は 2014 年 9 月 27 日（土）にキャンパスプラザ京都で第 17 回学術集会に併せて開催された。提出された資料に基づいて以下の項目について説明され、原案通り承認された。

1. 2013 年度事業報告
2. 2013 年度収支報告
3. 2014 年度事業計画
4. 2014 年度予算
5. 2015 年度事業
6. 国際看護研究会実施細則の改訂
7. 国際看護研究会第 18 回学術集会（第 66 回国際看護研究会）

日時：2015 年 9 月 26 日（土）10:00～17:00（予定）

場所；未定 注）東京近辺予定

会長：群馬大学大学院保健学研究科 辻村 弘美 氏

テーマ：遠隔教育を通じた途上国との国際看護協力（仮）

## III. 国際看護研究会第 17 回学術集会報告

第 17 回学術集会大会長：磯邊厚子

今年で 17 回目を迎えた学術集会は、はじめて関東を離れ、関西京都で実施致しました。参加者数（主催者運営委員等除く）は、140 名（うち会員 22、非会員 40、学生 78）でした。会員より非会員が多く、国際保健や看護を少しでも知って頂く機会でした。

聞こえてきた参加者の声には、「おもしろく一日が短かった、充実した内容だった、楽しかった」とありました。しかし、皆様には多々ご不自由をおかけしたこともあったと思います。また、私のような未熟者が、「しなければならぬ」軋轢と、されど行う以上は来て下さる方々に申し訳ない、と考えつつ迎えました。始まってみると、テーマやシンポジウムがどんなであれ、とくに途上国からのメッセージは強く、どんなことでも興味を引くことがわかり、感動する場面もありました。今回、アメリカや韓国の経験者も交え、視野が少し広がったように思います。また学生フォーラムを入れたためか、学生の参加者が沢山ありました。今後、ぜひ当研究会が学術的な学会として、変身していかれることを切に願

っています。最後に、参加して頂いた方に深くお礼を申し上げます。

#### IV. 第 17 回学術集会会長講演抄録

国際化時代の看護のパースペクティブ

主体性、社会性、公共性

Perspectives of nursing care in the era of globalization

Independence, sociality, and public nature

磯邊 厚子 (聖泉大学)

昨今、国家間（先進国や途上国）、地域内外の健康格差、その差は縮まりつつも、地域によってはいまだ深刻な健康問題が続いています。2000 年国連で採択されたミレニアム開発目標のとくに進捗が遅れているのは、乳幼児死亡率、妊産婦の健康問題、HIV/エイズ・マラリアなどの疾病の蔓延防止、などの保健問題です。そこでは同時に飢餓や極度の貧困、ジェンダー不平等などの問題も横たわっています。そのため、「看護」だけの解釈では、人の健康を捉えることは難しくなっています。人の健康や生活に影響する制度政策、社会経済、教育、労働環境や文化なども幅広くみていき、人々の健康を捉えることが必要です。「健康」を身体的能力だけに捉われず、むしろ生存の質や生活の質を維持向上するための資源として捉え、人の well-being (良い状態)まで、包括的に評価することが大切です。今回、プライマリ・ヘルスケアやヘルスプロモーションの健康の概念をふまえ、健康な生活を送るための前提条件すなわち生活の基盤となる諸要因や諸資源について、さらに地域固有の健康課題について検討してみたいと思います。

まず、スリランカの母子保健の成功例をあげ、制度政策の有効性及び政策実施に関わる保健環境について紹介します。一方で、成功の平均値に現れない人々の健康問題について検討します。政策の意義に加え、生活史、社会経済、労働、民族・宗教、ジェンダー差異などの側面から人々の健康問題を考察します。健康とは、人生の目的ではなく、人が望ましい生活を送るための重要な資源であり、看護は、人と環境に働きかけて生活の質を高めます。そのため、政策から個人の生活ニーズまで明らかにし、人々の参加を促し、人々が意思決定の中心になるよう働きかけること、すなわち看護のスキルを用い、人々の能力（資源）を引き出しつつ、健康な生活を送るための環境を整える役割をもっています。そこには個人やコミュニティの健康課題を公共の問題ととらえ、様々な分野の人々と協働しながら

ら行動していく看護の社会的役割、さらに健康格差の底辺にある人々の状況まで視野を拡げ、健康学習や政策提案など人々と共に行動する実践者としての看護の主体性が求められています。

グローバルかつ多様な価値観の時代、世界のそれぞれにおける健康上の問題について理解を拡げ、それらを明瞭かつ批判的に思考できる看護師、さらに人々の生活や行動様式に合った看護ケアを実践できる看護職者の育成が今こそ求められています。

## V. 第75回国際看護講演会のお知らせ

日 時：平成26年12月13日（土）13：00～15：00（12：45～受付開始）

会 場：国際協力機構研究所（JICA 市ヶ谷研究所） 201AB号室

（所在地：東京都新宿区市谷本村町10-5）

テーマ：

「モンゴルにおける母子保健活動ー母と子の健康な町づくりプロジェクトを通してー」

講 師：

小林 繁郎氏（公益財団法人結核予防会 結核研究所 国際部 結核対策プロジェクト・コーディネーター）

参加費：本会会員無料・非会員500円

\*会場「地球ひろば」は、広尾から市ヶ谷に移転しております。

事前申し込みは不要ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

## VI. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

いつも本研究会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

### 1. 2014年度の会費をまだ納めていない方は、至急お振込をお願い致します。

2014年度の会費を未納の方は恐縮ですが、至急、お振込みをお願いします。研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。また、事務整理の都合上、振込用紙に会員番号もご記入をお願いします。

**年会費振込先：国際看護研究会 ゆうちょ口座番号00150-6-121478**

2. 国内外に転居された方もいらっしゃるかと思います。最近転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。

転居された方は研究会事務局 E-mail(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)あてに新住所をご連絡下さい。尚、海外にも NEWSLETTER をお送りしています。

- NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。
- 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。

---

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、ニュースレターの記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします

# JSIN Newsletter